

ほくじょう なかま
牧場の 仲間たちの くらし

ゆうじょう まも
友情を 守る



きょう さいきん お さいこう
今日は、最近 起こった 最高に
は はなし おも
恥ずかしい 話を しようと思 思う。
どう い
みんなも 同意してくれたからね。
あいだ つ
ほくたちの 間に イライラが 積もって、
ゆうじょう とき はなし
友情が くずれかけた 時の 話だよ。

じまんには ならない 話^{はなし}だけど、
はな おも
話さなくちゃ いけないと 思^{おも}ったんだ。

だけど、ハッピーエンドが あるよ。
ハッピーエンドは、いつに なっても いい ものだね。

これが どんな ふう^{はじ}に 始^{はじ}まったのが、
だれから 始^{はじ}まったのがは 分^わからない。
ひる はん はなし
だけど、ビンゴが お昼ご飯^{はん}の 話^{はなし}から
してくれる こと^{こと}に なった。





わたし 私が ごちそうの からす麦を 食べていた 時の こと。

こうし 子牛の ジェニーも いっしょに 食べてたの。

ほくしょうぬし わたしたち 牧場主は 私達のために 用意して くれたけど

わたし 私は いっしょに 食べるのが 嫌だったのよ。

ジェニーは 食べ過ぎよ、

ふい こうへい 不公平だわって、わたし おも 思ったの。

それで わたし うし あし かのじょ と 私は 後ろ足で 彼女を け飛ばしたのよ。

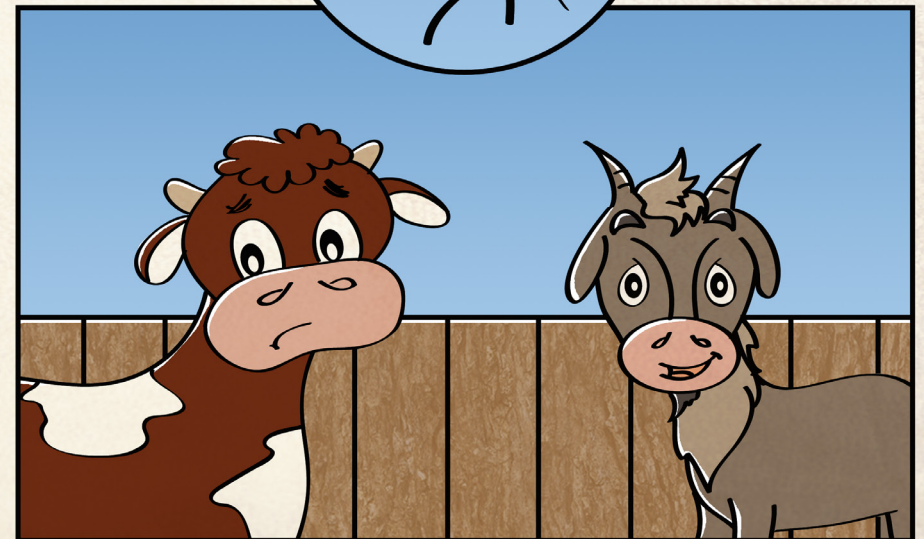
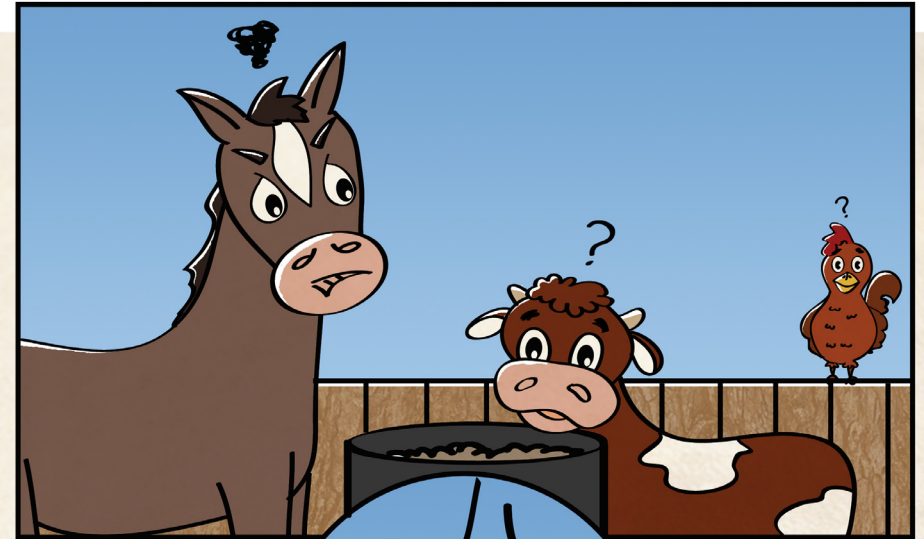


ジェニーは おきあ 起き上がって、

ふてくされながら なや て い 納屋を 出て行った。

だけど その時、ベニーが うし 後ろから

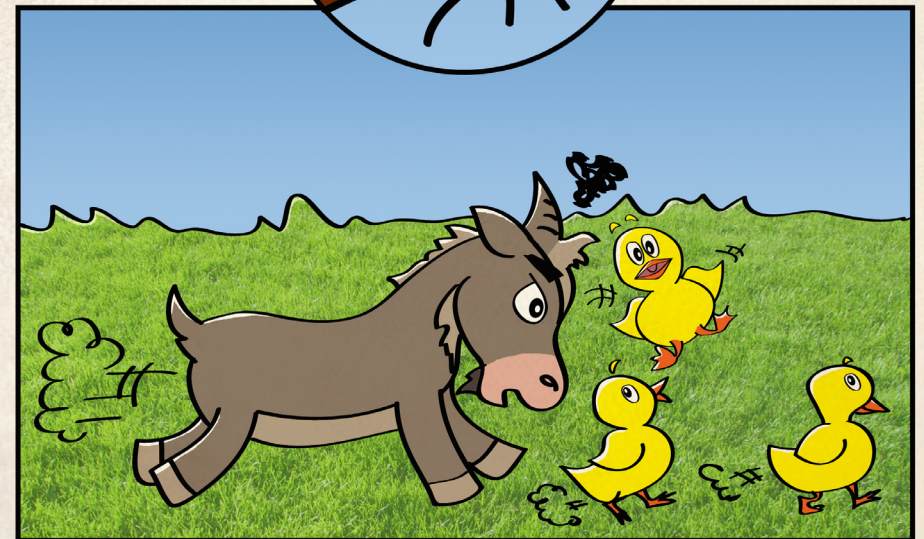
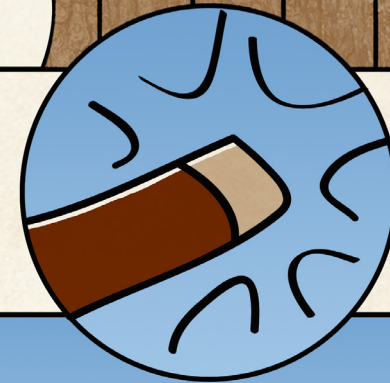
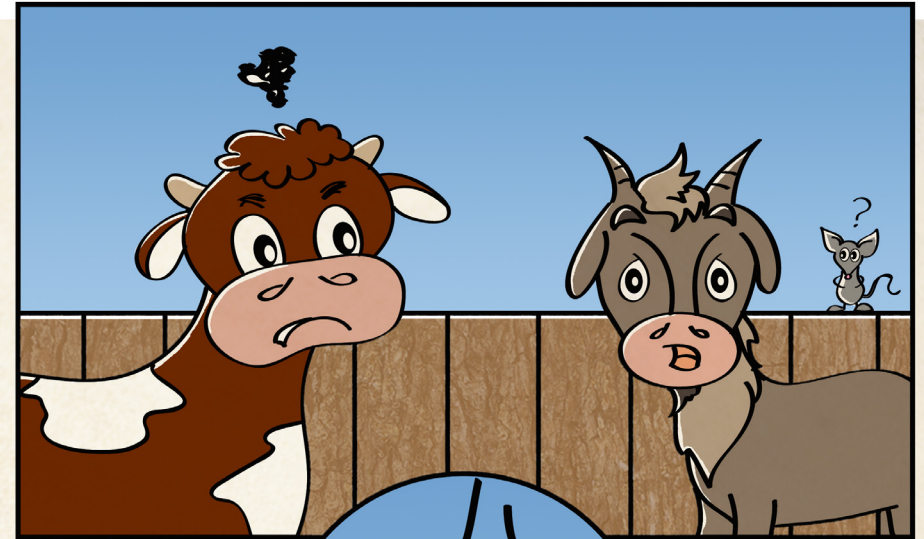
はし よ 走り寄って きて こえ 声を かけたんだ。



「やあ、ジェニー。あのね・・・」
ベニーが ^い ^お ^{うち} 言い終わらない 内に、
ジェニーは ^{かれ} ^と すばやく 彼を け飛ばした。
ベニーは ^ふ ^と 吹っ飛ばされて、さくに ^あ ぶち当たったよ。

^{こんど} 今度は、ベニーが ^ふ ^{きげん} 不機嫌に なってしまった。
^{なん} ^ふ ^{れい} 何て 無礼なんだろうって、^{ふんがい} 憤慨したんだね。

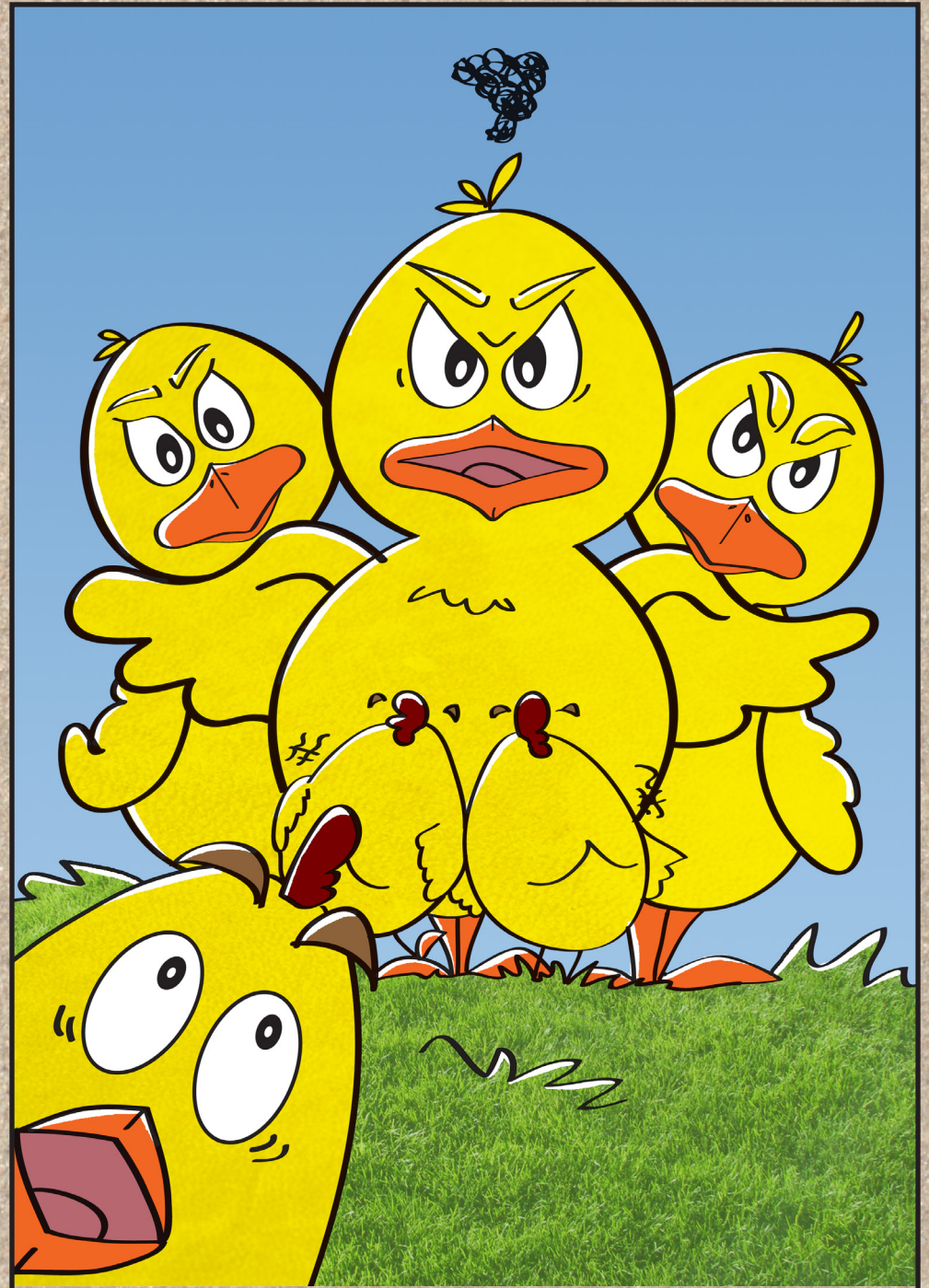
^ふ ^{かえ} 振り返ると、アヒルたちが ^な クワッ、クワッと 鳴きながら
そばを ^{とお} 通りかかるところだった。
それで ^{いち} ^わ ^{いち} ^わ ^{とお} ^す 一羽一羽 通り過ぎるたびに ^ず ^つ 頭突きしたのさ。
^{ほんとう} ^{こま} 本当に 困った ものだったよ。



今度は、アヒルたちも 腹を 立ててね。
その 内の 一羽は カツと なって、
鶏小屋から ふらふらと 出てきた
ヒヨコたちに 突っかかって 追いかけ回したんだ。

「どうして 外に いるんだい？
悪い ヒヨコたちだ。
さっさと 鶏小屋に 入れよ。
牧場主に け飛ばされる 前にな。」

そんな ことが 延々と 続いて、
牧場中の 動物達の 間に 広がったんだ。
こんなに ひどい ことになるなんて 気付かずに、
意地悪を してしまっていたんだね。





ネコたちと ほくでさえ、
いじわる 意地悪をし合っていたんだ。
かつての 深い 友情は、いつしが
みにくい ワナにはまって 失われて いたんだよ。

こうまん 高慢に なって、
たがいに たたき合っていた。
そして、ハつ当たりをしていたんだ。
ほほえんでも、すぐに しかめっ面だし。



だれが 一番 大きくて 強いかな？
さいきょう 最強キックが できるのは だれ？
いちばん 賢いのは？ こうどう 行動するのは 今だ。
きみたち 君達が、名も ない 腰抜けじゃ ないって、
みんなに 分かるようにね。



こんな ふう^{かな}に 悲しくも こわれた 友情^{ゆうじょう}を
もと^{もと}と お 元通りに してくれる もの^{なん}は 何だろう？
プライドで バラバラに なってしまった
ほく^{たち}達の 関係^{かんけい}を 元^{もと}と お 通りに してくれる もの^{なに}は 何？

だれかを 責^せめる ことなんて、できないよね？

そんな こと したって、始^{はじ}まらない。

だって、みんな 悪^{わる}いんだもの。

だれかが ごうま^{かんが}んだったからなんて、つまらない 考えさ。

とにかく ほく^{たち}達は、

仲直^{なかなあ}りしないと いけなかった。

けなし^あ合うのを 止^やめて、おたがいの 背^{はい}後^ごを

守^{まも}らなくちゃ いけなかったんだ。



それから どうか^いな^いった^いか^いと 言^いう^いと、
ほ^{たち}く^な達^やの 納^{きようふう}屋^ふに 強^{きようふう}風^ふが 吹^ふいて^ふき^ふた^ふん^ふだ。
だ^{たち}か^なら ほ^{たち}く^な達^やは、納^{きようふう}屋^ふが こ^{きようふう}わ^{きようふう}さ^{きようふう}れ^{きようふう}ない^{きようふう}よ^{きようふう}う^{きようふう}に
協^{きようふう}力^{きようふう}し^{きようふう}な^{きようふう}き^{きようふう}ゃ^{きようふう} い^{きようふう}け^{きようふう}な^{きようふう}か^{きようふう}つ^{きようふう}た。

ほ^{たち}く^な達^やは、す^{かお}ば^みや^あく^あ お^{かお}た^みが^あい^あの 顔^あを^あ 見^あ合^あつ^あた。
前^{まえ}と^{おな} 同^{とも}じ^{とも} 友^{とも}と^{とも}して^{とも}ね。

み^{なが}ん^{なが}な^{なが}の 中^{いちばん}で^{えら} 一^{えら}番^{えら} 偉^{えら}く^{えら} な^{えら}ろ^{えら}う^{えら}な^{えら}ん^{えら}て、
そ^{わす}んな^{わす} こ^{わす}とは^{わす} 忘^{わす}れて^{わす}し^{わす}ま^{わす}つ^{わす}た^{わす}の^{わす}さ。

お^やん^ねど^ねり^ねは 屋^み根^はの^は て^みっ^はぺ^はん^はで^は 見^み張^はり^は役^は。
ほ^{たち}く^な達^なは み^あん^あな^あ 集^あま^あつ^あて、
強^{きようこ}固^むな^む 群^むれ^むが^む で^むき^むつ^むつ^むあ^むつ^むた。



より強い 動物達は 外側に。
小さな 動物達は 中に 集まった。
強い きずなで 結ばれた 友情の 囲いの中 だね。
そうでないと、嵐で めちゃめちゃに されちゃう。

ぼく達が みんな、共に 身を 寄せ合おうと、
嵐は 吹いて来て 荒れ狂ったけれど、
まもなく 過ぎ去った。
ぼく達は 感謝の 気持ちで いっぱいになったよ。

ぼく達は おたがいを 取りもどした。
再び、強い 友情を 取りもどしたんだ。
そして、イライラする ことが あっても 負けずに、
この 友情を 守ると 固く 約束したんだよ。

